

平成 29 年第 4 回大崎市議会定例会一般質問発言通告書

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
1	14	只野直悦	<p>1 未来を担う子どもたちの教育環境の充実について</p> <p>(1) スポーツと音楽を通じた心の教育の充実について</p> <p style="padding-left: 20px;">ア 中学校部活動の環境整備（吹奏楽部の楽器）について</p> <p>(2) 生涯を通じた健康づくりの充実について</p> <p style="padding-left: 20px;">ア 幼児期からの健康教育について</p> <p>(3) 未来を拓く人材の育成について</p> <p style="padding-left: 20px;">ア 大崎市都市交流事業補助金基準見直しについて</p> <p>2 誇りある農業の振興について</p> <p>(1) 世界農業遺産の保全と活用について</p> <p style="padding-left: 20px;">ア 大崎地域自治体のリーダーとしての大崎市の役割と、 新年度予算への反映について</p> <p style="padding-left: 20px;">イ 農産物のブランド化と販売戦略の前進について</p> <p style="padding-left: 20px;">ウ 世界農業遺産ツーリズムの推進計画について</p> <p style="padding-left: 20px;">エ 次世代へつなぐ取り組みについて</p> <p style="padding-left: 20px;">オ 「大崎マスター検定」、「料理コンテスト」の取り組み の考えは</p>
2	19	氏家善男	<p>1 農業政策について</p> <p>(1) 30 年度に廃止させる減反政策への対応について</p> <p>(2) 市が推進する直播栽培について</p> <p>(3) ささ結作付奨励について</p> <p>(4) 圃場整備の促進について</p> <p>(5) 有害鳥獣対策の強化について</p> <p>(6) 汚染稲わらの処理実証試験結果について</p> <p>2 小型家電リサイクル法に伴う事業推進と取り組みについて</p> <p>(1) 本市での実績について（広域全体）</p> <p>(2) 事業成果について</p> <p>(3) 今後の推進について</p> <p>3 岩出山地区小学校の統合の準備状況について</p> <p>(1) スクールバス駐車場の簡易トイレの設置と、雨、雪を しのぐ仮設の建物の設置について</p> <p>(2) 伝統文化継承について</p> <p>(3) 統合により教職員数はどう変わるのか</p> <p>(4) スクールバス業務委託作業の進捗について</p>
3	18	後藤錦信	<p>1 世界農業遺産認定へ向けて</p> <p>(1) 取り組みの現状について</p> <p>(2) 認定を誇りと地域の宝として共有するための施策につ いて</p> <p>(3) 次世代への担い手育成について</p> <p>(4) 大崎定住自立圏共生ビジョンでの取り組みと実施体制 について</p> <p>(5) 市民団体からの F A O に対する申し入れについて</p> <p>2 韓国オルレコース認定へ向けて</p> <p>(1) 取り組みの現状について</p> <p>(2) 昭和 47 年に認定された「ふるさと緑の道」の活用につ</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
4	24	佐藤和好	<p>いて</p> <p>(3) 農業遺産を活用したコース設定について</p> <p>3 障害者福祉の推進について</p> <p>(1) 障害者が来庁した際の対応の現状について</p> <p>(2) 意思疎通支援事業の現状と今後の方向性について</p> <p>(3) 人材育成の視点からも手話通訳者の育成、配置を</p> <p>4 公衆衛生への取り組み支援について</p> <p>(1) 本年、鳴子温泉地域（特に大畑、末沢地区）に大量発生した害虫（ヤケヤスデ）の現状について</p> <p>(2) 防除等支援策の考えについて</p> <p>1 建設行政の機構改革について</p> <p>(1) 市庁舎建設等大型建設事業計画を実施する建設部の組織体制をどう考えているか</p> <p>(2) 下水道特別会計から地方公営企業法への法適用準備の取り組み状況について</p> <p>2 空き家対策について</p> <p>(1) 本市の空き家対策特別措置法に基づく特定空き家の把握はなされているのか</p> <p>(2) 第三者に被害を及ぼす危険性の高い空き家対策はどう講じられているか</p> <p>3 最近の文部科学省指針、方針と教育行政について</p> <p>(1) 文部科学省では地域と学校が連携して子どもの成長を支える協働活動の普及に向け新たな指針を作成したが、本市の取り組み状況は</p> <p>(2) 学校給食費の徴収業務を自治体が直接徴収することについて</p>
5	25	大友文司	<p>1 大崎市のスポーツ施設の充実について</p> <p>(1) スポーツ環境の整備について</p> <p>(2) スポーツ総合公園の考えは</p>
6	3	八木吉夫	<p>1 新市建設計画の変更に伴う財政健全化策及び税収増を模索した産業振興策について</p> <p>(1) 財政調整基金の激減が予測される中、健全経営にどう取り組むのか、さらには税収の高みをどのように構築するのか、伺う</p> <p>2 鳥獣被害対策について</p> <p>(1) 耕作放棄地にならないための鳥獣被害対策支援方を伺う</p> <p>3 廃校舎利活用策について</p> <p>(1) 小学校の統廃合が進む中、廃校舎を利用した企業誘致等の方策も検討すべきと思うが、所見を伺う</p> <p>4 場外市場構想について</p> <p>(1) 大崎市唯一の青果市場、水産市場を利活用する産直市場等の場外市場がコスト面や利便性、実効性が高いと考えるが、所見を伺う</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
7	21	木内知子	<p>1 松山町駅前公共用地の活用策推進について</p> <p>(1) マリス商業用地売却へ向けての施策の進捗と宅地分譲の決断は</p> <p>(2) 旧町営住宅予定地の有効活用策の考えは</p> <p>(3) マリス内駅前区集会所前の公共用地活用策は</p> <p>2 子どもたちを健康被害から守るために</p> <p>(1) 校庭の土壌の放射線量を測定すべきではないか。また、子どもたちの健康調査をすべきと考えるが、どうか</p> <p>(2) 集団フッ化物洗口実施後の状況と、副作用発生事例はないのか。また、保護者への希望調査書に副作用等の記載をすべきではないか</p> <p>3 学校における働き方改革について</p> <p>(1) 本市の教職員の多忙化に対する考え方と改善計画について</p>
8	29	小沢和悦	<p>1 人材確保、若者の地元定着を推進する条件つき奨学金給付制度や奨学金返還支援制度の創設について</p> <p>(1) 実現に向けた努力による現在の到達点について</p> <p>(2) 実現見通しについて</p> <p>2 地方税滞納整理機構による違法取り立て問題への対応について</p> <p>(1) 「違法」を滞納整理機構が認めようとならない場合の市の対応</p> <p>(2) 6,000名を超える完納できない世帯の現状把握と徴収法適用について</p> <p>(3) 税を完納できない世帯の生活再建支援体制について</p> <p>3 放射能汚染廃棄物処理問題への大崎市議会決議、大崎地域広域行事務組合議会の意見書の評価と尊重意思の有無について</p> <p>(1) 市議会決議及び大崎地域広域行政事務組合議会の意見書を尊重する意思はないのか</p> <p>4 談合疑惑問題への対応について</p> <p>(1) 談合疑惑問題はなぜ調査しないのか</p> <p>(2) 問題点の整理と改善策について</p> <p>5 公共交通先進地に学んでの改善意思はあるのか、体制は十分か</p> <p>(1) 八代市の方式への評価、及び教訓を大崎市に生かす考えはないか</p> <p>(2) 深刻な悩みを抱える地域への親身な対応について</p>
9	22	豊嶋正人	<p>1 減反廃止後の農家不安払拭への対応について</p> <p>(1) 国による生産数量目標の配分がなくなる政策転換に加え、減反に参加した生産者が対象の交付金の廃止や、米価の上昇基調などが相まって、18年産の作付動向は不透明である。本市としては、こうした情勢をどのように捉え、農家の不安解消策を講じていくのかを伺う</p> <p>2 国民健康保険事業県単位化への課題について</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項	
			<ul style="list-style-type: none"> (1) 県から標準的な保険税のシミュレーションが示されたか (2) 応能・応益割合は、現行と比較してどのようになるのか (3) 法定外繰入金はどのように考えているのか (4) 本市が行っている国民健康保険サービスは県単位化となっても継続すべきと考えるが、市の考えを伺う (5) 国民健康保険税の減免、一部減免を維持すべきと考えるが、市の考えは (6) 国民健康保険税の未納世帯については、過酷な滞納整理に結びつかないようにすべきであり、差し押さえなどは十分配慮すべきと考えるが、市の見解は (7) 調整交付金のペナルティーカットに対する市の考えは (8) 現状の職員数を維持もしくは増員すべきと考えるが 3 指定管理者制度の運用について <ul style="list-style-type: none"> (1) 指定管理者の選定 (2) 適正な委託料、指定管理料の積算 (3) 入札制度、指定管理制度の改善 (4) 改正労働契約法の遵守 (5) 公契約制度の制定 (6) 労働安全衛生の確立 4 中学校制服価格を安くする取り組みについて <ul style="list-style-type: none"> (1) 公正取引委員会は、価格を安くするための学校の取り組みについて提言をまとめ、11月29日公表した。本市の取り組みを伺う 5 大崎市全国大会等出場助成金の対象者枠の拡大について <ul style="list-style-type: none"> (1) 現行は対象が小中学生だが、社会人までに拡大の検討をすべきではないか 	
10	1	佐藤仁一郎	<ul style="list-style-type: none"> 1 大崎市の農政をどうリードしようとしているのか <ul style="list-style-type: none"> (1) 農業再生協議会の役割をどう捉えているのか (2) 米穀の需給と価格安定の必要性和水田フル活用への取り組みの方向性は (3) 生産調整の実効性を確保する担い手・後継者対策をどう進めるのか (4) 卸売市場見直し、改革をどう捉えるのか (5) 市内農産物による6次産業化産品をどの程度把握しているのか (6) 米以外の大崎ブランドを確立すべきと捉えるが、その方策はあるのか (7) オール大崎産物の発信を積極的に行い、リードすべきと思うが、いかがか 2 山林の伐採、開発に伴う環境保全策について <ul style="list-style-type: none"> (1) 市内の森林伐採申請面積の推移を伺う (2) 再生林の面積の推移を伺う (3) 山林の開発許可申請面積の推移を伺う (4) 開発許可を受け伐採し、長期間放置状態の箇所はないか、あるとすれば指導しているか 	

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
11	7	相澤久義	<p>(5) 太陽光発電施設設置基準が変更されたと聞くが内容を伺う。あわせて、調整池の設置なども要件として加えられているか、伺う</p> <p>(6) 山林伐採や開発後の環境整備をおろそかにすると、既存水路の排水能力をはるかに超える流量となる。排水、環境保全対策も義務化すべき</p> <p>(7) 国、県、市有林の管理計画状況と地場産材の積極的活用策はあるのか</p> <p>1 回復期リハビリ病棟と鳴子分院について</p> <p>(1) 東北厚生局の施設基準等適時調査の指摘、病棟内浴室整備の不備により回復期リハビリ病棟の看板を返上しても診療内容は変わらないとのことであるが、10月までの対応と違いがあるとの入院患者の話であるが</p> <p>ア 新たな回復期リハビリテーション病棟対象者の受け入れは</p> <p>イ チーム体制によるリハビリテーション、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、ケースワーカー、栄養士などによるそれぞれの専門性を最大に発揮し、質の高いサービスの提供は今までと変わらないのか</p> <p>ウ 回復期リハビリテーション病棟の流れ（入院から退院まで）は、4階一般病棟に入院し、主治医の診察及び検査後リハの指示が出て、患者は集中的にリハを行うため回復期リハビリテーション病棟に転入し、リハビリテーション実施、リハビリカンファレンス、面談（月1回家族への説明）、外泊、家屋調査、退院準備、退院（自宅、他の病院や施設へ）、この流れに変わりはないのか</p> <p>エ 大崎・栗原医療圏から回復期リハビリテーション病棟がなくなる。人口10万人当たり、全国平均60床、東北地域49床、宮城県は40床程度と低く、全国下位から3番目、高齢化により患者数の増加が予想されるが、噂されている市内の民間病院の回復期リハビリテーション病棟は進んでいない。大崎市、市民病院としてどのように対応していくのか。回復期リハビリテーション病棟の設置の考えは</p> <p>(2) 鳴子分院改革プランについて</p> <p>ア 良質な温泉利用による回復期リハビリテーション病棟の考えは</p> <p>2 鳴瀬川河川管理について</p> <p>(1) 9・11豪雨時、三本木中学校前堤防はあと十数センチで越水の危機、周辺の廻山地区は床上浸水等の大きな被害を受けた。現在、新町排水機場工事が進められているが、堤防天場1メートル50センチに達すると排水不能となる。早期に桑折江頭首口以西の河道、河川敷の堆積土砂撤去を強く国に働きかけるべきと考えるが</p> <p>(2) 三本木地域下流の堤防改修は進んでいるが、坂本天性</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
12	6	中鉢和二郎	<p>寺裏の浸食が見られる。下宿，南谷地，仲町周辺堤防の改修計画は。あわせて，都市計画決定路南町館山線計画実現の可能性は</p> <p>(3) ラブリバー大作戦当初，支障木の伐採，刈り払い，野焼きを行っていたが，自然保護の観点からか，今は河川敷のゴミ拾い程度である。繁茂する支障木，雑草，有害鳥獣，地区消防団の協力のもとで野焼きによる河川環境美化に努めるべきと考えるが</p> <p>3 三本木パークゴルフ場オープンに向けた職員体制について</p> <p>(1) 全国のパークゴルフ愛好者から注目が寄せられている。平成 32 年供用開始に向け，三本木パークゴルフ場安全祈願祭が行われた。オープンがスムーズに行われるよう職員配置が必要ではないか</p> <p>4 福祉事業所の市入札参加業者登録について</p> <p>(1) 各福祉事業所は利用者の工賃アップに必死であるが，工賃アップに寄与するよう，福祉事業所の市入札参加登録はできないのか</p> <p>5 国道 4 号上り線沿道管理，米袋地区に学んで</p> <p>(1) 国道 4 号上り線古川米袋地区は，沿道の除草，植木の手入れが地区の皆さんで行われている。地区民に対する報奨規程はないのか。このような環境美化活動を他地区へ広げるべきと考えるが</p> <p>1 防災行政無線の補完システム整備と，地区毎の防災力強化策について</p> <p>(1) 本年度，防災行政無線の本格運用が開始された。しかし，「聞こえない」，「聞き取れない」など課題が多い。これらの問題は防災行政無線の構造的な問題であり，100%解決することは不可能である。したがって，補完システムの整備が喫緊の課題である。既に運用開始している大崎市メール配信サービス，防災行政無線テレホンサービス（フリーダイヤル）の周知徹底とあわせ，コミュニティFM放送等重層的な伝達媒体の整備が必要と考える。このことは，平成 25 年第 4 回大崎市議会定例会における「議案第 184 号工事請負契約の締結についてに対する附帯決議」において強く求めていた事項でもあり，市長の所見を伺う。</p> <p>また，防災行政無線等により防災や避難に関する情報がもたらされても，避難等に関する知識がなくては個々の市民が適切に行動できない。日ごろからの防災学習と訓練が大切と考えるが，各地区自主防災組織での取り組みを，行政が支援する取り組みが十分とは言えない状況と考えるが，あわせて所見を伺う</p> <p>2 U b e r の仕組みを利用した地域内公共交通について</p> <p>(1) I C Tを活用した自動車配車システムであるU b e r を活用し，京都府京丹後市と北海道中頓別町において道路運送法第 78 条第 2 号に基づく公共交通空白地有償</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
			<p>運送/過疎地有償運送を実施している。住民相互の助け合いによる地域内公共交通である。この仕組みを本市においても導入すべきと考えるが、所見を伺う</p> <p>3 地域のICT人材育成と、ICT関連産業の振興について</p> <p>(1) 社会生活の成熟化により、「もの」から「サービス」の時代へと変質してきている。「サービス」の時代の旗手はICT産業であり、今後、ICT産業を支えていくICT人材を本市においても育成していく必要がある。義務教育期間におけるICTリテラシー教育や、高等教育におけるICT技能の習得等々教育すべき内容は多岐にわたる。</p> <p>本市におけるICT人材育成をいかに考えているか、所見を伺う。</p> <p>さらに、地域のICT人材を生かす就労の場として、ICT産業の育成、誘致、集積が求められているが、これまで全く手つかずの状態である。MSO主催の産業フェアにおいてもICT関連事業者の出展は皆無の状態であり、出遅れ感は否めない。早急に対策を講ずるべきと考えるが、所見を伺う</p> <p>4 地域活性化助成金について</p> <p>(1) 1つの自治体となった大崎市、合併して既に10年以上経過しても地域によって抱える問題は複雑さまである。</p> <p>そのような地域が抱える問題を大崎市という一律の物差しで推し量るのは決して得策ではないと考える。</p> <p>仮に、大崎市が、起伏がなく平坦で、面積的にも小さく一様に発達した自治体であれば、一体性の醸成の考えのもと、一律の基準でさまざまなことが判断されてもよいのかもしれない。しかし、約800平方キロメートルの市域は、西は奥羽山脈の峰から、東は約6キロメートルで海岸線に届くほど宮城県を横断し、端から端までの距離は約80キロメートルにも及び、自然、生態系、地勢、産業、交通、文化等々多様な大崎市においては、一律の基準はむしろ実質的な地域格差を助長するものと考えなければならない。</p> <p>各地域が自立するためには、地域の多様性を尊重し、地域特性を生かした地域づくりが必要である。</p> <p>しかし、現在の地域づくり活動が直面する課題は、少子高齢化と人口減少による担い手の問題と活動資金がないことなど、解決困難なものが多い。</p> <p>そこで、官民が手を握り関係者が話し合いを持ち、地域の課題解決に向け、例えば老人福祉、地域包括ケア、健康づくり、地域内交通、買い物難民対策、子ども・子育て、祭り、イベント等々、積極果敢に取り組む活動に対し、市の基金を活用して地域毎に毎年交付金を交付し、その後押しをすることはできないだろう</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
			<p>か。</p> <p>つまり、地域の話し合いによる意思決定のもと、地域が柔軟性をもって使える財源を地域に交付するという「地域活性化助成金」の創設である。</p> <p>地方創生が叫ばれる昨今だが、今後も過疎、人口減少、少子高齢化のトレンドが止まることはなく、地域が抱える問題は深刻化していくと考えられる。そのようなときだからこそ、このような資金を地域に与え、地域主権を後押しするこの「地域活性化助成金」が必要だと考えるが、市長の所見を伺う</p> <p>5 市民病院への手話通訳士配置</p> <p>(1) 海外で病気をした際、言葉が通じないことでコミュニケーションがとれず、不安な思いをしたり、危険な目にあつた方は多いと聞く。国内にいても、聴覚障害などにより音声言語でコミュニケーションの取れない障害者の方は海外での病気と同様に大変苦勞されていると伺っている。</p> <p>障害者差別解消法では、不当な差別的取扱いの禁止と合理的配慮の提供を求めているが、市民病院への手話通訳士配置は合理的配慮の提供の一環として必要かつ重要な取組だ。</p> <p>また、現在策定中の第3次障害者計画では、基本目標1「互いに尊重し支え合うために」、施策の方向性「情報提供の充実」、施策の展開「コミュニケーション手段等の充実」、①意思疎通支援の充実として、手話通訳者等の派遣を行う意思疎通支援事業が明記されている。しかし、病院の利用は、急な疾病や突然のケガなど緊急性が求められるケースも多く、派遣ではなく配置が強く求められる。</p> <p>以上の視点より、市民病院への手話通訳士配置について病院事業管理者の所見を伺う</p>
13	11	横山悦子	<p>1 本市の教育について</p> <p>(1) 平成29年度全国学力・学習状況調査の評価と課題、今後の対応と方針について伺う</p> <p>(2) 市長の学力向上策を伺う</p> <p>(3) 教育長の本市の教育観について</p> <p>2 岩出山小学校の学校統廃合について</p> <p>(1) 統廃合加配について、児童が新学校に慣れるまで3年以上の継続ができないか</p> <p>(2) スクールバス補助員の導入の考えについて</p> <p>3 いじめをなくすことについて</p> <p>(1) 指導主事訪問の要望について</p> <p>4 子育て支援について</p> <p>(1) 病気にかかりやすい0歳児と所得制限ぎりぎり世帯の医療費助成について</p> <p>(2) どうして他市のように所得制限を撤廃できないのか</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
14	9	木村和彦	<p>(3) 来年度で終わる任期付保育士の考えと今後の方針は</p> <p>5 在宅医療・介護連携推進事業の具体的取り組みについて</p> <p>(1) 平成30年4月までに全ての自治体で8項目を実施することが義務づけられているが、本市の考えと意気込みについて伺う</p> <p>ア 地域医療・介護の支援の把握</p> <p>イ 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討</p> <p>ウ 切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築推進</p> <p>エ 医療・介護関係者の情報共有支援</p> <p>オ 在宅医療・介護連携に関する相談支援</p> <p>カ 医療・介護関係者の研修</p> <p>キ 地域住民への普及啓発</p> <p>ク 在宅医療・介護連携に関する関係市町村の連携</p> <p>(2) ふるさと納税の返戻品に「高齢者の見守り訪問」を取り入れてはどうか</p> <p>6 おいしい水の販売について</p> <p>(1) 「日本一おいしい水」に輝いた「鳴子の水道水」を販売できないか</p> <p>1 大崎市の今後と役割について</p> <p>(1) 中心市としての大崎市の方向性</p> <p>ア スポーツ、文化、歴史などのリーダーシップをどのよう に努め、誘導していくのか</p> <p>(2) 経済、観光中心市としての役割の考え方</p> <p>(3) 少子化、高齢化の対応と人材の育成について</p> <p>2 保育行政について</p> <p>(1) 放課後児童保育の待機児童対策</p> <p>ア 現状と今後の対応について</p> <p>イ 新学期までの対応と需要見通し</p> <p>(2) 保育施設の民営化と幼保一貫施設の施設計画について</p> <p>ア 進行状況と今後の取り組みについて</p> <p>3 小学校の統廃合について</p> <p>(1) 統合計画の進捗状況と保護者、地域住民の合意形成は</p> <p>(2) 保護者の要望と対応した進行順位に変更の考え方</p> <p>4 水道事業の今後と運営について</p> <p>(1) 安心・安全な水の供給と水源の確保について</p> <p>ア 老朽管改修計画と自己水の安定確保策</p> <p>(2) 災害発生時の対応と装備の拡充率は</p> <p>ア 災害に対応した給水車、緊急作業対応装備の整備状況と人的対応の育成は</p>
15	2	佐藤仁一	<p>1 総合支所機能充実と市内ネットワークづくりに向けたNPO団体などの育成と活用策を問う</p> <p>(1) 総合支所機能と本庁機能の連携調整などの総合評価と目指す大崎市行政を伺う</p> <p>(2) 市民協働の実効性を高める指定管理者や地域自治組織</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
16	13	遊佐辰雄	<p>などの課題把握と協働姿勢を伺う</p> <p>(3) コンパクトシティ・プラス・ネットワークづくり推進上、管理的行政から協働（調整）行政への執行機能充実を伺う</p> <p>2 水田農業政策改革が及ぼす 30 年産以降の本市産業振興計画への影響と施策の転換を問う</p> <p>(1) 地域経済の維持活性に向け、米の直接支払交付金廃止に伴う本市水田農業への影響把握と自立誘導策を伺う</p> <p>(2) 担い手育成と確保のための本市独自の地域産業への取り組みを伺う</p> <p>(3) 産地交付金などの活用と、本市の中山間地域や経営実態からの持続可能な農産業振興を伺う</p> <p>3 世界農業遺産などの認定による地域教育・観光振興へのアクションプログラムを問う</p> <p>(1) 認定までの保全努力などを、認定後にどのようにつなげ、生かしていくための行動指針を伺う</p> <p>(2) 学校教育、社会教育を通じたまちづくりとの継承連携の考え方を伺う</p> <p>(3) 生物多様性と観光資源の相乗的な共進化による地域振興の推進策を伺う</p> <p>1 農業振興政策について</p> <p>(1) 市独自としての農業後継者支援制度を</p> <p>(2) 家族（小規模）農業でも継続できるような支援制度を</p> <p>(3) 農協等が農家の農地を借り受け、生産活動ができるような支援制度を</p> <p>(4) 鳥獣被害に対する緊急抜本的強化対策を</p> <p>(5) 転作作物の導入時の苗等への助成を</p> <p>2 中小商工業者の振興策について</p> <p>(1) 中小企業・小規模企業振興条例の制定を早急に目指す検討委員会を立ち上げるべきでは</p> <p>(2) 地元の工業を伸ばし、雇用を拡大するよう、「工業振興課」と、地元商業者を応援する「商業振興課」、多くの観光客を呼び込む「観光推進課」体制の実現を</p>
17	15	相澤孝弘	<p>1 新年度予算編成への考えについて</p> <p>(1) 事務事業評価の結果をどのように生かして新年度予算に結びつけ、職員のやる気を喚起させていくのか</p> <p>2 少子化対策と幼児教育の取り組みについて</p> <p>(1) 幼児教育無償化との政府方針の中、大崎市市内の幼稚園と保育所における知育、学力の格差をどのように解消していくのか</p> <p>(2) 0-2保育体制と保護者が抱える苦悩について</p> <p>3 新たな文化施設の必要性について</p> <p>(1) 住みやすいし、買い物も便利な大崎市であっても定住、移住、人口増加の点では魅力がなければ近隣の市町となんら変わらない。現在の大崎市に足りないものの一つに新たな文化施設が必要と思われる。大崎市の</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
			<p>魅力を高めると同時に仙台圏一極集中を阻止するためにも早急に検討すべきである</p> <p>4 常襲冠水解消対策について</p> <p>(1) 古川地域南部地区周辺の豪雨時の冠水は一向に改善されてない。内水を排水機場より水量が増加しない状態から排水を強化すべきであり、大江川排水機場のポンプを増設することを国・県に求めるべきではないか</p> <p>5 中小規模の劣化が著しい老朽橋の再整備について</p> <p>(1) 市内 923 カ所の点検結果と整備計画はどのように進められているのか</p> <p>(2) 震災でダメージを受け、安全な迂回路もなく、地域住民が不安を訴えて何度も要望している老朽橋の整備をなぜ早急にできないのか</p>
18	12	関 武徳	<p>1 西地区熱回収施設等整備事業への取り組みについて</p> <p>(1) 施設建設合意形成への地元協議の取り組みと進捗について</p> <p>(2) 地元要望、地域振興策と推進計画の策定状況について</p> <p>(3) 今後の具体的取り組みの考えについて</p> <p>2 第四小学区放課後児童クラブ施設設置と課題について</p> <p>(1) 施設設置への見通しについて</p> <p>(2) 利用児童数の将来予測と施設運営の考え方について</p> <p>(3) 施設運営の民営化の考えと課題をどう受け止めているのか</p>
19	4	氷室勝好	<p>1 各地域の商業活性化及び持続的な地域づくりについて</p> <p>(1) 大崎市都市計画マスタープランのそれぞれの構想具現化への取り組みについて伺う</p> <p>(2) 大崎市立地適正化計画策定の進捗と、将来都市構造の方針について伺う</p> <p>2 行政サービスの維持向上と行政改革の推進について</p> <p>(1) 市政の総合的な満足度向上と、行政改革大綱の方針による職員数の取り組みについて伺う</p> <p>(2) 公務員の定年延長について、国においては検討とのことであるが、本市の対応について伺う</p> <p>(3) 総務省による自治体非常勤職員の期末手当支給改善の方針とのことであるが、通知に対する取り組みについて伺う</p> <p>3 文化財保護事業の拡充促進について</p> <p>(1) 文化財保護法の改正に伴う保存及び継承等の支援の取り組みについて伺う</p> <p>(2) ふるさと歴史館の、より充実、活用に向けた施設の運営体制について伺う</p>
20	10	加藤善市	<p>1 宝の都（くに）・大崎の宝について</p> <p>(1) 市として、大崎の宝は何があると思うのか、伺う</p> <p>(2) それらの発信の方法と成果について</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
21	5	佐藤弘樹	<p>2 測量業界の談合と市の対応について</p> <p>(1) 現時点での調査の状況について</p> <p>(2) 市の事業への影響について</p> <p>1 市の花・木・鳥等普及事業の成果と現況について</p> <p>2 災害情報補完システムのあり方について</p> <p>3 みやぎ大崎観光公社の運営体制と役割への考えについて</p> <p>4 有害鳥獣被害対策の拡充と強化について</p> <p>5 学校支援ボランティア推進事業の理解向上と情報共有について</p> <p>6 子供へのインフルエンザ予防接種助成について</p> <p>7 ブックスタート事業の導入について</p>
22	27	大山 巖	<p>1 防災関係等について</p> <p>(1) 防災無線を市民の日常生活に利活用する考え方について</p> <p>(2) 職場と職員の住居を近接させることについて</p> <p>(3) 国交省管理の河川内の立木伐採対策について</p> <p>2 農業対策等について</p> <p>(1) 転作制度廃止後の農業経営の対策について</p> <p>(2) 景観条例の制定について</p> <p>(3) 農業遺産が世界に登録後の対策について</p> <p>3 学校関係について</p> <p>(1) 児童生徒に対する表彰条例の制定について</p> <p>(2) 不登校、いじめ等の現状と予防対策について</p> <p>(3) 岩出山小学校の登録時の交通渋滞の解消について</p> <p>(4) 朝ごはん推進の制度について</p>
23	17	山田和明	<p>1 いじめ予防と不登校の現状について</p> <p>(1) いじめ予防とその対策をするため、チーム学校としての取り組みについて</p> <p>(2) いじめ予防のための授業の取り組みについて</p> <p>(3) 不登校の現状について</p> <p>2 鹿島台第一幼稚園の事業運営について</p> <p>(1) 3年保育の導入について</p> <p>(2) 幼稚園の運動会を地域住民と一緒に開催してはどうか</p> <p>3 鹿島台公民館の建て替えについて</p> <p>(1) 鹿島台公民館は、開館してから40年経過し、老朽化が目立つようになり、床は波打ち、雨漏りも見られ、外装も黒ずみ、安全で十分な施設とは言えない状況であります。そのため、新たに公民館の建て替え整備計画を立てるべきと考え、その所見を伺う</p>
24	23	青沼智雄	<p>1 モノ作り日本、これで大丈夫か</p> <p>(1) 自動車メーカーの燃費データ詐称や、素材、製品メーカーデータ改ざん問題について</p> <p>ア 当市発注の製品、工事発注の使用素材の検証を</p> <p>2 やむことのない北朝鮮ミサイル発射への防災体制について</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
25	8	鎌内つぎ子	<p>(1) 防災意識は高いけれども、実践せず。もっと危機意識を持つ防災体制について</p> <p>3 いじめ、不登校等の調査アンケートの活用について</p> <p>(1) 青森県で起きた中学生の自殺事件、その3カ月前のアンケートでは問題がなかったとアンケート用紙を廃棄処分との報道。この事態をどのように受けとめるべきか</p> <p>4 政府による米の生産調整（減反）が2018年廃止。宮城県、大崎市の対応について</p> <p>(1) 米をつくり過ぎ等、米価の下落防止対策について</p> <p>5 人口減の検証と人口増対策について</p> <p>(1) 若者が結婚し、子供を産み育てやすいまちづくりについて</p> <p>(2) 鳴子地域の温泉と森林を生かす施策について</p> <p>(3) 交流人口増対策として、スポーツ、音楽、研修合宿の格安誘致を行うことについて</p> <p>6 公共施設のLED化の進捗と、防犯カメラの設置について</p> <p>(1) 市内街灯、防犯灯のLED化の進捗は</p> <p>(2) 公共施設、公道の防犯カメラの設置度は</p> <p>1 子育て支援策について</p> <p>(1) 子ども医療費助成制度における所得制限の廃止について</p> <p>(2) 子どもに対するインフルエンザ等予防接種の無料化について</p> <p>(3) 多子世帯の保育料負担軽減について</p> <p>2 教育行政について</p> <p>(1) 学校給食費の負担軽減について</p> <p>(2) 養護教諭の幼稚園兼務解消について</p> <p>(3) 教員補助の増員、通級学級の設置や増設について</p>
26	26	佐藤 勝	<p>1 伊藤市長の4選出馬の意思表示は</p> <p>(1) 来春の市長選挙において市長の継続を求める市民の声が大きい、今議会での表明をすべきと考えるが、どうか</p> <p>(2) 一般的に首長は3期12年というのが定説(?)のようであり、それは組織の硬直化等による職員の意欲の低下が要因と言われるが、この任期中に人事制度等にどう意を用いてきたのか</p> <p>(3) 来年度予算の骨格が固まる時期であるが、予算編成の考え方の所見を伺う</p> <p>(4) 4度目の選挙公約は重点政策の数値目標を掲げ、工程表、財源を示し、市民との政策の契約をすべきと考えるが</p> <p>2 小野新鶴巻地区への工業団地整備計画を発表して2年、土壌調査、測量設計の事業等の結果が出ているが、当初四、五年で造成としていたが遅れる心配がある。その要因をどう分析しているのか</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
			<p>(1) 農振農用地の除外が難点のようであるが、県との協議の進捗状況について何うとともに、市の土地利用計画の見直しを行うべきと考えるが、いかがか</p> <p>(2) 議会の農山村振興議員連盟が江合川の北側地域に「農山村地 域資源活用施設」の拠点をとということで、農家中心の「川北地域農産物販売施設」研究会を立ち上げたが、農村の活性化支援策として、団地の中に複合型施設を配置すべきと考えるが、いかがか</p> <p>(3) 国道4号線の4車線化（竹の花～通揚）と、団地内の荒谷大貫線の拡幅を早急にと考えるがどうか、何う</p> <p>3 本庁舎建設の建設手法として地元産材の活用を含めて検討するとしているが、思い切って木造・木質化をすべきと提起するが、所見を何う</p> <p>(1) 大崎市森林ビジョンはサブタイトルに「地域振興の核となる林業の再生に向けて」とあるが、それに向かつて市民に夢を与える施策として、この際、木材先導型のモデルになるような庁舎建設にかじを切ってはどうか。そして、庁内プロジェクトチームに市長は比較検討と調査の指示をすべきであり、庁舎建設調査特別委員会にも提起をすべきであると考えているが、どうか</p> <p>(2) 建設費が割高となり、耐震性、耐久性で劣ると言われているが、最近の建設技術からすれば、その難点が解消されると考える。また、国の「公共建築物等の整備に活用可能な補助事業」を活用できるのではないかと考えるがいかがか、何う</p> <p>(3) コンセプトを「環境にやさしい、ぬくもりのある庁舎」として、全国からの来庁者でまちのにぎわいを創出できると考えるが、市長の英断を求める</p> <p>(4) 市民が楽しく来庁できるよう、にぎわいを創出する、市民交流を促すためのプラザ（広場、市場）を1階に配してはどうか</p> <p>(5) 中心市街地の1つの核となる庁舎として、道の駅防災広場～市役所～緒絶川～リオーネ～図書館～駅と誘導し、回遊性を高める小径整備、回遊路、景観形成をどう進めるのか。今度示された仮称道の駅おおさきの整備の基本方針のコンセプトは「まちの元気創造」を創出するとしているが、それが見えない。原因は、核とすべき施設がない。庁舎の1階に多くの市民が集う交流プラザ的な施設等が必須条件で、現在の議論は事業費の抑制だけに走っているような感が否めない。まちなか再生の核、「まちづくり」という大局に立っての議論をすべき</p> <p>(6) プロジェクトチームは、チーフに高橋副市長を充て、役所の主要部課長がメンバーであるが、推進本部の本部員も同じようなメンバー、長期的な将来の時代に柔軟に対応できなくなる年代層で心配である。若手職員と入れかえ（半数くらい）を求めるが、推進本部長である市長の所見を何う。また、ワーキンググループは</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項	
			これまでどんな役割を果たしてきたのか、あわせて伺 う	